

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	平成30年度第1回総合教育会議		
開催日時	平成31年1月23日（水） 開会時刻 午後5時 閉会時刻 午後6時		
開催場所	ふじみ野市役所第2庁舎B301会議室		
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名 氏名
	市長	高畑 博	福祉総合支援 チームリーダー 嶋村 武彦
	教育長	朝倉 孝	福祉総合支援 チーム副主幹 熊木 しづ子
	教育長職務代理者	富田 信太郎	
	委員	塩野 好一	
	委員	伊藤 英夫	
	委員	丸山 昇	
会議の議題	(1) 子どもの貧困と学習支援について (2) 次期ふじみ野市教育振興基本計画について (3) その他		
会議の公開又は非公開の別	公開		
会議の非公開の理由	-		
傍聴人の数	2人		
会議の内容	別紙のとおり		
会議資料	(1) 子どもの貧困・学習支援の取組について (2) 次期ふじみ野市教育振興基本計画について		
事務局	樋口総合政策部長、経営戦略室（谷口室長、武井副室長、森川主査、大脇主事）		
議事の確定	確定年月日	平成31年2月6日	
	記名押印 又は署名	役職名 市長 高畑 博 ㊟	

別紙

発言の要旨

発言者	発言の要旨
市長 事務局	<p>－開会－</p> <p>事務局より、議題及び参考資料について説明</p> <p>傍聴人について「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定」により、原則公開となることを説明。</p>
市長	<p>－あいさつ－</p> <p>総合教育会議につきましては、市長が主宰することとなっております。これからの進行につきましては、市長に行っていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>それでは、次第に沿って進行してまいります。次第のうち議題（1）「子どもの貧困と学習支援について」説明を、嶋村福祉総合支援チームリーダー、熊木副主幹より申し上げます。</p>
嶋村リーダー	<p>－資料に基づき説明－</p>
富田委員	<p>先日、入間地区で教育長、教育委員の研修会があり、子どもの貧困と学習支援の成果について講演を受けてきました。貧困が学習の成果に影響を及ぼしていることは多くのエビデンスから判明しており、世間でも知られている状況になっています。ふじみ野市においてもすでに学習支援の取組を行っているということで、素晴らしい事業であると感じています。また、学習支援により希望の進路へ進むことは目標の1つではありますが、それだけではなく子どもの居場所をつくることによって、生活が安定するということを講演されており、まさに学習だけではないふじみ野市の取組は素晴らしいものであると思います。</p>
丸山委員	<p>私も資料に目を通して、素晴らしい事業であると感じました。持っている情報が福祉部と教育委員会では異なるため、教育委員会だけではできない事業であると思います。この事業はいつから始まったのでしょうか。</p>
熊木副主幹	<p>平成27年度より事業を実施しております。</p>
丸山委員	<p>事業開始から4年経過していて、事業自体もブラッシュアップされていると感じます。</p>
熊木副主幹	<p>毎年、事業の充実化を図っており、特に教育委員会と連携ができたことで、事業をうまく進められています。</p>
教育長	<p>この事業を進めるにあたり、子どもたちの掘り起こしが難しい課題</p>

	<p>となっています。生活保護世帯の子どもであれば、生活保護の情報を活用して声掛けをすることができますが、経済的側面だけでは見えにくい子どももおり、学校と福祉総合支援チームの連携が難しいところでもあります。学校現場では、声をかけることによって、「なぜ、うちが声をかけられるのか」と返答があった場合にどのように対応すべきかが難しく、声をかけるのを躊躇してしまうところがあります。しかしながら、平成27年度より行っている事業で、教育委員会と福祉総合支援チームとの信頼関係の中で、躊躇するよりも子どもの掘り起こしの方が大切であると取り組んできた結果、ある程度の子どもが通うことに繋がっていると思います。これだけの取組を行っている自治体はないのではないかと考えていますが、手挙げが多くなった際に、この事業の趣旨をどのように活かしていくのが課題であると考えています。また、単に、経済的なことではなく取り残されている子どももいますので、居場所がない家庭の子どもをどう救っていくのか教育委員会だけではなく市長部局と連携して検討してまいります。</p>
市長	<p>これまでの取組の中でも言われていたのが、対象となり得る生活困窮世帯において、ご両親から子どもの学習に対する理解が得られない家庭もあります。子どもが自分の意見を出しづらかったりするので、カウンセリングを行い、学習の場が子どもの居場所づくりとなっているのが本市の事業の特徴です。</p>
熊木副主幹	<p>カウンセリングでは、人が変わったように話をする子どももいます。親以外の第三者と接する機会がないので、学習支援の先生などの周りの大人が温かく見守ってくれているという気持ちが子どもたちを後押ししているのではないかと委託業者とも話しています。心のケアは、カウンセリングだけではなく、いつもとは違う第三者的场所に来ることでそれが子どもの刺激となっていて大事であると考えています。</p>
伊藤委員	<p>カウンセリングは1人30分で1回あたり2時間となっていますが、1回4人のカウンセリングを行っているということでしょうか。</p>
嶋村リーダー	<p>1回4人を想定しておりますが、子どもの状況により4人ができないときもあります。全員を対象として行っておりますが、現在、37名がカウンセリングを受けています。</p>
伊藤委員 熊木副主幹	<p>カウンセリングは、この人数で足りているのでしょうか。 平成31年1月からは相談日を月1回から月2回に増やし対応を行っています。子どもによっては、重いケースの場合があり、複数回カウンセリングを行っていることもあります。</p>

伊藤委員 嶋村リー ダー	<p>AI学習診断と学力診断テストは異なるものでしょうか。</p> <p>AI学習診断は生徒の性格や特性を考慮し、どのような学習方法が生徒にあっているのかを診断します。また、学力診断テストは生徒の学力を測るためのものになっています。</p>
伊藤委員	<p>支援の効果という点で、良い取組を行っているので、エビデンスを示すことができればより説得力が増すのではないかと考えます。</p>
熊木副主 幹 教育長	<p>今年度から取組の方法を変更しているので、これから数年単位で追跡調査を行っていくことを検討しています。</p> <p>先日の講演会で事例としてカナダのトロントで実施された貧困地域の子どもを大学まで行かせるプロジェクトの費用対効果についてエビデンスを含め発表がありました。子どもたちは最終的に納税者となることで、1ドルに対して24ドルの効果があるとされており、事業に対して、費用対効果について考えることが必要になると思います。教育委員会と福祉総合支援チームとの事業の関わり方として、すみわけを明確にすることで効果が出ていると感じています。学校がよりこの事業に関わることで、子どもたちが見つけた、学校とは違う居場所が失われてしまう可能性があり、マイナスに働いてしまうと思います。学校の役割は学習支援の場に子どもを誘導することであり、学校のできる役割を考えなければならないと思います。</p>
塩野委員	<p>良い取組であると思います。生活保護世帯の中で、学習支援を利用できていない子どもも含めて底上げができればと思います。</p>
富田委員	<p>現在は、中高生が対象となっていますが、小学校高学年から学習の遅れがでる単元があります。今後、小学校高学年から支援を行うことは考えられますか。</p>
熊木副主 幹	<p>埼玉県からモデル的に小学校から始めてほしいという要望は来ており、県内でもいくつかの市町村が始めています。しかし、夜に行われる事業なので、親の送迎を条件にしたり、時間や場所の問題等があるため、安全対策について十分検討をしなければなりません。</p>
富田委員	<p>参加していない方への呼びかけ等を行っているのでしょうか。</p>
熊木副主 幹	<p>今年度は1人ひとり声掛けを行いました。特に中学1年生は部活動を一生懸命やりたいなど、なかなか勉強に意識が向かない子どもや塾に通っている子どももおり、来られない理由は把握しております。また、教育委員会からも積極的に情報提供をしていただいておりますので、必要な子どもの発見という点ではきめ細かな対応ができております。</p>
伊藤委員	<p>事業費は4年間で増えてきているのでしょうか。また、対象を拡大することにより、事業費も増大すると思いますが、財源はあるので</p>

嶋村リーダー	<p>しょうか。</p> <p>事業費について、平成30年度予算は平成29年度予算に比べ約200万円増えている状況となっておりますが、開催回数を2地区ともに週1回から週2回に増やしておりますので、それ程の増額というわけではないと考えております。小学生に関しましては、様々な条件を加えないと開催が難しいと考えており、場所や時間、既に週のうち4日間教室を開催していること等の検討が必要になると考えています。</p>
丸山委員	<p>平成31年度から事業名を子どもの学習・生活支援事業に変更するのはわかりやすく良いと思います。</p>
市長	<p>この取組はあったかい取組であり、奥の深いものになっています。対象となりえる方は潜在的に多くいると考えられ、学校で気軽に声を掛けられるものでもなく、家庭にも事情があったりと様々な課題があります。市長へ就任して間もない頃、非常にショッキングなことがありました。福祉課の担当者が私のところへ訪れ、生活保護世帯の母子家庭の子どもで進学をしたい方が、病弱で働くことのできない母の面倒をみながら、自分の勉強をしており、進学のことには親に心配をさせないために、相談できず、自らの進学のための資金をアルバイトをして貯めていました。しかし、その当時は法律上、生活保護費の返還を求めなくてはならず、これに決裁をすることが非常につらかったのを今でも忘れずにいます。現在は、法改正により、学習のためのアルバイトについては家計の収入として算入されないとされています。なぜ今まで変えることができなかったのかと当事者となって感じました。こういったことを通じて、行政としてどこまで支援ができるのか、また、親にも本心を語れない中で、学校以外の部分で支援ができるというのは未来への投資であると思います。今後も皆様から様々なご指導をいただきつつ推進していきたいと思います。</p>
市長	<p>以上で議題1について終了します。続きまして議題2「次期ふじみ野市教育振興基本計画について」説明を朝倉教育長お願いします。</p>
教育長	<p>－資料に基づき説明－</p>
伊藤委員	<p>小学生の学習支援について、地域協働学校の取組の中で考えているということで、良い取組になりそうではあると感じましたが、発達障がいを持つような子どもだと、地域の中で実施するのは難しいと思います。発達障がいを持つ子どもは本来であれば、学校の通級指</p>

	<p>導教室が担うものですが、実際には、先ほどの生活保護世帯と同様に、学校側には知られたくなかったり、認めたくなかったりする場合には通級指導教室には通わせたくないといったことも考えられます。様々な関係機関が連携してニーズの掘り起こしをすることが大切であると思います。通級指導教室より、地域協働学校の方が通いやすい場合もあるかもしれません。支援員が地域協働学校で学習支援に参加するという考えられ、様々なすみわけが可能な、どのような子どもでも参加できるような仕組み作りが必要であると考えます。</p>
教育長	<p>選択できるということが大事であると思います。相談体制や連携を深めていかなければと考えており、次期計画では子どもたちがより良い選択ができるような教育の提供をしたいと思います。</p>
市長	<p>学習支援の中でも、経済的には大丈夫な世帯だけでも、そちらでお願いしたいというケースもあったようです。</p>
熊木副主幹	<p>学校でなかなか適応できない子どもで勉強は塾に通わせたがやはり適応できず、心の面においてこういった取組に参加できないかと相談されましたが、生活困窮制度の中で、所得制限もない中でどこまで良しとするかが課題となっています。</p>
市長	<p>生活困窮のみならず、選択の幅が広がることは良いことであると思います。</p>
丸山委員	<p>小学校高学年の学習支援で場所や時間の問題は、地域協働学校の取組の中で実施できれば解決するのではないかと思います。</p>
教育長	<p>小学校の高学年だけではなく、低学年から、放課後児童クラブや放課後子ども教室に加え、子どもが自分の居場所を選択できるような受け皿を地域にも作っていただけるような仕組みを検討したいと思います。</p>
富田委員	<p>施策の目玉は地域協働学校であると認識しています。中でも社会教育のあり方も重要になりますが、小学生を地域の高齢者が教えるということは win-win の関係になるのではないかと思います、地域のいたるところに win がつくような取組になると思いますので、一層の充実をお願いします。先ほど市長から「未来への投資」とありましたが、子どもへの教育はまさに未来への投資となるので、旧長岡藩の米百俵の逸話ではありませんが、そのような精神で教育の充実をしていただければと思います。</p>
塩野委員	<p>地域協働学校がまだ地域に浸透していないと実感しているので、どんどん地域に広めていただければと思います。</p>
市長	<p>いきいきクラブ連合会など地域貢献をしていただいて感謝をするとともに、その姿を見ている子どもにとって、時代が変わったとして</p>

	<p>も本質は変わらず、地域の大人の背中を見て育つことができるのではないかと思います。文部科学省も様々なことを示していますが、基本計画が打ち出されて、計画に沿った形でそれぞれがあったかい取組で、そのあたたかさは地域協働学校の中で、地域力によってどのくらい生み出すことができるかがポイントになると思います。子どもが大人たちの背中を見て育つような教育であってほしいと思います。ふじみ野市では総合教育会議だけではなく、この制度が立ち上がる前から教育委員との懇談が行われてきております。今後も教育振興基本計画へご助言いただければと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは続きまして、議題3その他に移ります。 委員の皆様から何かお話になっておきたいことはありますか。</p>
	<p>(特になし)</p>
<p>市長</p>	<p>今日はお忙しい中ありがとうございました。進行については事務局に戻します。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、これをもちまして平成30年度第1回ふじみ野市総合教育会議を終了します。</p>